

世界の女の子に、生きていく力を。



Because I am a Girl

THE STATE OF THE WORLD'S GIRLS 2008

In the Shadow of War

世界ガールズ白書 2008 年版 サマリー **女の子と紛争**

「この白書は、紛争や紛争終結後の国々などで、厳しい環境に囲まれて命の危険にさらされ、能力発揮の機会を失う危機にさらされる女の子の重大な問題に光を当てるという意味でとても時宜にかなった、歓迎すべき報告だ。教育を受ける機会や医療サービスを受ける機会などを含め、普通の生活を送るチャンスを女の子に与えるため、緊急の対策が必要となる」

エレン・ジョンソン・サーリーフ、リベリア大統領

「女の子を差別することは道徳的に弁解の余地がないだけでなく、経済的にも、政治的にも、社会的にも容認しがたいことだ。不安定な地域や紛争から復興しようとしている国でこそ、これは重要な問題だ。そういう場所でも、人口のかなりの割合を無視するなどという行為はまったく理にかなわないからだ」

グラサ・マシエル

「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2008」は、子ども時代、思春期、青年期と成長する過程で女の子の権利を詳細に見ていくプランの白書の第2弾となる。この一連の白書はミレニアム開発目標の達成目標年である2015年まで、毎年発行していく予定だ。

副題を「女の子と紛争」とした2008年の白書は、世界各地の紛争地域に暮らす女の子の現状を調査し、紛争前、紛争中、紛争後に彼女たちに何が起るかを見ていく。そして、世界的、国家的、地域的にどのような変化を起こすべきかを提案するものである。

この白書は、若い女性を保護する義務のある者すべて、中でも女の子が生存し、守られ、能力を発揮し、人生に関わる決断に参加できるように保証する責任を持つ「権力者」に向

けて作成されている。世界中のほぼすべての国が、「子どもの権利条約」を批准して女の子にこうした権利があることに合意した。にもかかわらず、女の子たちはいまだに日常的に（そして紛争状態では特に）無視され続け、権利を奪われ続けている。

この白書は、2部構成になっている。前半では包括的なデータをもとに、女の子がその年齢と性別ゆえに紛争をどのように経験するかを分析する。ここでは、多くの女の子の声が反映されている。後半では、女の子がどのような状況に置かれているかに関する世界的統計をモニタリングする。毎回異なるテーマに焦点を当てるだけでなく、この白書では2007年に世界各地で生まれた135人の少女たちを追跡し、幼く、しかも女性であるということが彼女たちの人生にどのような影響を与えているかを見ていく。

主な事実： 女の子と紛争

武力紛争に巻き込まれた女の子と若い女性に特化した統計は少ないが、以下のことはわかっている。

- ・武力紛争のおそれがある、紛争の最中である、紛争終結後に復興しつつある国に暮らす女の子の数は2億人いる。

- ・世界中の推定30万人の子ども兵士のうち、およそ10万人が女の子である。1990年から2003年までの間、55カ国の政府、武装集団、民兵組織、および／または武装対立組織に女の子が加わっており、うち38カ国で武力紛争に関わっていた。

- ・過去10年間に、戦争で200万人の子どもたちが命を奪われ、600万人が負傷、100万人以上が孤児になったり家族と離れ離れになったりした。

- ・紛争による影響を受けている国で学校に通っていない3,900万人の子どもの半数以上が女の子である。学校に通っていない子どもの数は減少しつつあるが、いまだに学校に通うことができている子どもの割合は女の子の側に大きく偏っている。

正確な数字は誰にも知りようがないが、何千人もの女の子と若い女性が戦時中にレイプや性的虐待を受けている。現在、レイプは民族紛争や宗教紛争で意図的な戦略として用いられている。

- ・2006年末時点で、世界中には3,290万人の難民や国内避難民がいる。その大多数が女性と子どもである。

背景：戦争の陰で

戦争と言うと、銃を持った男たち、戦車、戦闘を思い浮かべることが多いのではないだろうか。ずらりと並ぶテントや難民たちが映るテレビの映像を思い出す人もいるかもしれない。戦争と聞いて、若い女性を思い浮かべることがまずないだろう。だが、民間人としてであれ兵士としてであれ、紛争時には若い女性が重要な役割を果たしているのだ。

男の子も女の子も、若い人々はその数の多さゆえに、戦争による深刻な影響を受ける。紛争が起こっている国の人口の大半は、若年層なのだ。若いからこそ、彼らは戦争の影響に苦しむ。だが自分たちの身に起こることに対しては、大人よりも対抗できる手段が少ないのだ。

ガーナの17歳の少女はこう言う。

「戦争を始めるのは子どもたちではありません。ですが、その破壊的な影響を一番受けやすいのは子どもたちです。何百万人もの罪もない子どもたちが自分たちにはまったく責任のない紛争のせいで命を失うのです。一部の欲深い指導者たちが銃で権力を奪ったからというだけで。そんな時代には何もかもが止まってしまいます。教育もなく、飲み水もなく、電気もなく、食べ物もなく、家もなく、そのうえ一部の女の子たちはレイプされ、HIVに感染してしまうのです」

この白書では、紛争が女の子に与える影響を精査するために5つの「レンズ」を用いている。それぞれのレンズが、各章をさまざまな度合いで見えていく。

1. 参加とエンパワーメント。社会の脆弱性と紛争は、女の子の参加とエンパワーメントの機会にプラスにもマイナスにも影響する。
2. 安全と保護。安全が崩壊したときに特に影響を受けやすいのが女の子と若い女性。さまざまな形の暴力が、罰せられることもなく次々と彼女たちを襲う。
3. 基本的なサービスへのアクセス。国家制度やサービスが破綻すると、女の子と若い女性ならではの影響を受ける。
4. 経済的安心。紛争中、紛争後に暮らしを立てていこうとする家族が困難に直面すると、女の子ならではの影響を受ける。
5. ジェンダーの役割と関係。男性と女性の互いへの接し方は、紛争が始まる前からすでに定まっており、紛争中や紛争後にも女の子たちに影響し続ける。

戦争のときも平和なときも

・第1弾の「Because I am a Girl 世界ガールズ白書」では、平和な時代であっても多くの国では女性が性別を理由に差別を受けている現状が明らかになった。何百万人もの若い女性が、女性であり若いというだけで偏見と虐待の二重の打撃を受けている。彼女たちは兄弟たちよりも栄養不足に苦しむ可能性が高く、学校へ行ける機会も少ない。早すぎる結婚をさせられやすく、健康問題も起こりやすく、家庭内暴力の数多くの被害者の1人となる可能性が高い。彼女たちを保護し、権利を行使できるよう手助けをしてくれるはずの家族やコミュニティ、学校、法制度、警察、政府などの機関はすべて、実際には逆に彼女たちを抑圧する存在そのものとなっている場合があまりにも多いのだ。

・UNIFEM——「紛争時に女性が苦しめられる極度の暴力は、戦争という状況だけから生まれるものではない。平和な時代からすでに、女性の人生に存在する暴力と直接関連するものなのだ」

紛争の変わりゆく側面

戦争というものが、特に女性と女の子に関して、過去 20 年間で劇的に変化してきた。激しい紛争は今では何年も続くようになり、暴力は度合いを変えながらも公然と行われ、平和は持続するかどうか非常に不確実である。こうした状態がさらなる貧困と社会の脆弱性を引き起こし、さらに多くの人々が国内避難民となっていく。

「もはや兵士も民間人も区別なし」という戦争の衝撃を、若い女性はこれまで以上に民間人として耐え忍ばなければならない状況になってきている。彼女たちは家庭において、そしてコミュニティにおいて、経験したことのない、不慣れで困難な役割を果たさなければならないかもしれないのだ。たとえば、紛争へとつながる時期、そして紛争の最中と終結後も、家族が暮らしを立てていく手段を見つけるのは非常に難しくなる。貧困は増加する。そしてその結果、女の子が労働市場に入ることを余儀なくされる場合がある。そしてそれは危険な仕事、売春、戦闘に加わることを意味することもあるのだ。あるいは、両親や親戚が殺されたり戦闘に巻き込まれたりした場合、若い女性は年少の子どもたちの世話を見なければならなくなり、家庭を切り盛りしながら生計を立てていかなければならなくなる。中には、新しい生き方に合わせて新たな技術を身につけられる者もいるが、そうできない者も多い。

現在、若い女性の多くには、自ら戦闘員となる以外に選択肢がほぼない。これは、彼女たちが誘拐されて指揮官の「妻」にさせられてしまい、他にどうしようもないからという場合もある。戦闘部隊に加わることはある程度の保護と社会的地位を手に入れる手段でもあり、ときには生き残る唯一の手段である場合もある。銃を持つことが安全と食糧、保護を保証する唯一の手段のように思われ、それまで手にしたことのなかった自由を与えてくれるような気がするのだ。1998 年・99 年にコソボ解放軍で戦った女の子、コシェはこう言う。「怖くなんかありません。戦う用意はできています。ここでは料理なんかしません、仲間とともに戦うのです」。

若い女性を守り、自信を持たせ、未来への希望を与え、兵士になることを防ぐ主な手段のひとつが教育である。しかし、女の子は不安定または脆弱な国家で教育を受けていない 3,900 万人の子どもたちの大半を占めている。彼女たちは紛争がなかったとしても学校には通っていないのかもしれない。娘に家事労働をさせなければならないから、あるいは外へ出すと危ないからという理由で、親が家から出さないのかもしれないのだ。

戦争時には、若い女性の健康も危うくなる。多くの女性と子どもが、戦闘に巻き込まれて

死ぬよりも、栄養不良や防げたはずの病気、出産時の合併症で命を落としてしまう。診療所や病院、医師、看護師、薬、避妊具などは、もっとも必要とされるときに戦争の不安定さのせいで不足している可能性が高いのだ。

戦争時、若い女性には他にも深刻な危険がある。性的暴力やレイプは紛争によってもたらされるだけでなく、敵の文化を破壊して未来の人口を変えようと言う意図的な戦略となっているのだ。若い女性はこの攻撃の矢面に立たされる。しかもレイプは、HIVの蔓延を狙った意図的な行為でもある。

戦争は最後の弾丸で終わりはしない

実際の戦闘が終わった後でも、女の子の幸福と安全に関して言えば、紛争がなくなったからといって「平和」とは言えない。若い女性は紛争終結直後でも、戦争中と同じくらいの危険にさらされる可能性があるのだ。たとえば、復員した兵士たちが国中をうろついていて、警察などの法と安全を守る機関がまだ存在しないかもしれない。

女性兵士は、しばしば復員計画から取り残されてしまう。理由は単純で、責任者が兵士と言えば男性としか考えないためだ。また、守ってくれるためにいるはずの権力者（警察や平和維持者も含め）から若い女性が虐待を受けるケースも増えている。

故郷に戻った若い女性は、戦争中に産んだ赤ちゃんを連れて帰ると、「温かい歓迎」とはとも言えない反応を受ける場合がある。リベリアのローズはこう言う。

「私が初めて故郷に戻ったとき、村の人たちは喜びませんでした。だから暮らしていくのはとても大変でした。話しかけることすらできなかったし、同年代の人たちと一緒にいることもできなかった。私には赤ちゃんがいて、その子の父親は村の出身ではない。村人が知らない相手で、子どもを産んだことはわたしの責任だと思われていたからです。私が無理やり相手と一緒に生活させられたことは理解してもらえません。みんな、私が売春婦で、娘たちに悪影響を与えていると思っています。だから誰も私と口をきいてくれません」

彼女たちは、生計を立てる手段を見つけなければならないかもしれない。それはときには売春などの危険な仕事に頼ることであり、そこから薬物使用など他の問題につながる可能性もある。シエラレオネのある女の子が、自分の経験を語ってくれた。

「今は売春で生計を立てています。ホームレスですが、いろんな危険にさらされて、もううんざりです。耐えていくために、薬に手を出しました。コカインとか、ブラウン・ブラウン（クラック）とか。（薬物を摂取すると）ほっとして、いろいろな問題のことを考えなくてすむし、戦争の嫌な思い出も、悲しさも感じません」

私たちの物語——女の子たちの声に耳を傾ける

不安定な時代に自分たちが直面するリスクのことをよくわかっていて、自分たちを守るにはどうすればいいかについて意見を持っているのは、女の子たち自身である。家族やコミュニティ、当局や政府はその声に耳を傾け、行動に反映させるべきである。

このため、今回の報告書には戦争を生き抜いた後で立ち直り、家を切り盛りし、新たな技術を身につけ、国際フォーラムで若者代表にまでなった女の子たちの経験談を数多く掲載している。紛争時に伝統という縛りが崩壊することが、皮肉にも、女の子にそれまではなかった機会や自由を与えることもあるのだ。

女の子たちの声

この白書は女の子たちの声そのもので動かされている。その中には戦争や紛争の影響を受けている5つの国に暮らす女の子たちの声が含まれている。彼女たちはこの報告書のために集まり、女の子や若い女性としての人生や未来への展望を話し合った。

「大人になったら、私たちが新たな指導者になって変化をもたらせたらいいと思います」
マナール、15歳、パレスチナ

「私は幸せで平和に、必要なものは全部手に入る状態で過ごしたいです。今はまだ避難民もいるし、貧しい地域や多くの問題があります。こういうこと全部を変えて、危機を乗り越えて前進したいです」 イサウラ、16歳、東ティモール

「発言する機会が与えられれば、女性たちは発言します。政府が組織を作る手助けをしてくれれば、そのために必要なものは持っているのです。女性の権利が尊重されれば、改善がみられるはずです」 ヴァネラ、20歳、ハイチ

「私には未来がありません。読むことも書くこともできませんから。でも読み書きを覚えて生徒になるチャンスがあれば、教員になれるように勉強したいです。次の世代に勉強を教えるために。戦争のときも困難なときも、自分の子どもたちを学校に行かせたいです」
クルド人の女の子、14歳、イラク

「私は13歳のとき、学生運動に参加しました。子どもたちが飢えることのないよう、運動に貢献して変化を起こしたいという夢があったのです。その後、武力闘争に加わりました。若い女の子だったから世間知らずで、怖いもの知らずだったのです。女の子は『兵士の寂しさを和らげるため』に性的関係を強要されるのだと知りました。でも、ろくに知りもしない人の相手をした私たちのことは、誰が気遣ってくれますか？」
女の子の兵士、ホンジュラス

「現代の女の子たちは、待ち望んでいた本当の変化を手に入れるために革命を起こすべきです。立法者たちはそのために貢献するべきです」 アメデー、19歳、ハイチ

例えばハイチでは、18歳の若い女性、ジョアサン・グルスネットが議長を務める全国青年フォーラム（Youth National Forum、YNF）がある。これは国中に蔓延する暴力に取り組むため、若者が率いる組織だ。この組織はハイチの大統領と首相に会って、国内の武力紛争に対処するための若い人々の考えについて話し合い、また不平等やジェンダーに基づく暴力についても懸念を示している。17歳のジネットがこの白書の聞き取り調査に応じてこう語っている。

「斧の小さな一振りも、いずれは大木を倒します。女の子たちの声は少しずつ届き始めています。ハイチの男性は、女性も若い女の子も、権利を持っているのだということに気づくべきです」

手に手を取って——今なされるべきこと

こうした女の子たちの意見に耳を傾けることは、第一の段階だ。女の子を守り、その権利が侵害されないようにするためになされるべきことは他にたくさんある。

政府は変化を起こすことができる。たとえば、リベリア政府は紛争後の過渡期という機会を利用してレイプ防止法を導入し、遺産相続に関する法律も女性や女の子のために改正した。同様に、シエラレオネの内紛終結後に新たなレイプ防止法が導入されて以降、女の子たちは地元の子どもの向けのラジオ局を使ってレイプが違法であり、レイプが罰せられない慣習が撲滅されるべきだということを訴え続けている。その後、正式な通報や逮捕の件数が増加した。

国際組織や非政府組織（NGO）もまた、紛争時の女の子を守る上で果たせる役割がある。こうした組織は、女の子の権利と安全を守るための適切な法的機構や政策機構が設置されるよう監視する義務があるのだ。国際NGOは政府の代わりになることは決してできないが、不安定な時代には国が国民に対する義務を果たす手段を欠く場合が多い。こうした状況では、国際組織は地方組織やコミュニティの能力を育成し、政府に資源を要求するとともに生存に欠かせないサービスの提供を求めるようにしていかなければならない。また、国際NGOは女の子を支えるためのもっと効果的でジェンダーに配慮した人道的支援や開発支援、法的保護機能を求めて活動することもできる。

民間セクターは平和確保への戦略の一部として、若者の雇用プログラムを開発・実施することができる。こうしたプログラムは若い男性だけではなく若い女性も対象にし、特に若い母親や立場の弱い若い女性に焦点を当てるべきである。

紛争時における女の子のための8つの行動計画

1. 紛争前、紛争中、紛争後に女の子や若者の組織の技術と能力を強化し、女の子が自分に影響を与える決断事項すべてに意見を言えるようにする。
2. 女の子が和平交渉と真実和解委員会で、必要な場合には発言できるようにする。
3. 施行されている法律が女の子を守ってその権利を促進するよう、法を改正する。
4. 法の支配を再構築し、警察を訓練し、女の子の権利を守る機能的で適切な法制度に投資することで法の施行を確実にする。
5. 紛争時、紛争後、不安定な状態の国における女の子の教育を促進し、すべての子どもに質の高い教育を保証するために資金を拠出する。
6. 思春期の女の子と若い女性に特有の健康ニーズを最優先する。
7. 紛争地域や紛争終了地域で働く国連職員の行動規範を強化し、彼らが女の子と若い女性から搾取することなく、彼女たちを守るようにする。
8. 若者雇用プログラムが、特に紛争終結国においては若い男性だけでなく若い女性、とりわけ若い母親に注力するようにし、彼女たちが適切な技術訓練や生計を立てる手段を得られるようにする。

これらの提案は、あらゆる階層の組織や機関が政策立案の際に、これ以上女の子を無視することがないように願って策定されたものである。これらの変化が紛争に巻き込まれたり影響を受けたりした女の子と若い女性に大きな変化をもたらすことを、わたしたちは信じている。

我々は、若者や女の子のこうした声に耳を傾けなければならない。

「私たちは、自分に影響のある決定が行われる際に参加する機会がもっとほしいのです。私たちや私たちの組織に力を与えて、自分に影響のあるすべての決定について意見を聞いてもらえる形で参加できるようにしてください。もう決断が下されたあとで呼ばれたくはありません。みなさんと協力して活動していきたいのです」

紛争中・紛争終了地域で活動する組織として、そして単に人間として、紛争とその余波の中に生きる何百万人もの女の子と若い女性のためにより良い未来を創っていくことは我々の義務であり責任なのだ。

世界の女の子に、生きていく力を。

